



# 恵水通信

第3号  
平成29年  
12月15日

## ●『恵水通信』は、県オリジナル品種「恵水」の旬の情報をお届けします。

第3号では、市場出荷2年目となった平成29年産「恵水」の生産・出荷・販売に関する様子、早期の生産拡大に有効な「恵水」のジョイント栽培実証圃場の状況をお伝えします。

## ●「恵水」、市場出荷2年目の取組

県オリジナル品種「恵水」は、昨年に引き続き茨城県梨組合連合会が中心となり関係機関の協力のもと、2年目の販売を迎えました。販売にあたっては、昨年同様に出荷規格、出荷市場、出荷日、出荷資材を県内で統一しました。各出荷組織・関係者による市場出荷への呼びかけもあり、昨年より出荷量、出荷組織、出荷者ともに増えました（表1）。

表1 「恵水」市場出荷の状況

	平成28年	平成29年
出荷量	約1.6 t	約4.6 t
出荷組織	8組織	9組織
出荷者	24名	55名
平均取引単価	約530円/kg	約530円/kg



※出荷量、平均取引単価は全農茨城県本部実績データより

## ●「恵水」の評価は良好、出荷量の増加が求められています

「恵水」は、流通関係者から甘く食味が良いなど好評価を得ています。ここでは平成28～29年の出荷時に得られた流通関係者の評価を掲載します。

（茨城県農産物販売推進東京本部 聞き取り調査結果）

- ・甘みが強く、とにかく美味しかった。「恵水」は大玉であるためギフト需要に向いている。出荷期は「豊水」と同時期であるが、「恵水」は酸味がないため住み分けでき全く問題ない。【量販店、H28】
- ・「恵水」は酸味がなく甘いため、「幸水」が終わり「豊水」の時期と同時期にでてくる品種としてはとても良い。関東の店舗では、「幸水」から「豊水」に切り換わってから梨の売上は落ちる傾向があるが、「恵水」の数量がまとまってでてくれば売上面では大いに期待できる。【果実専門店、H28】
- ・「豊水」の果肉軟化が増えたなか、「恵水」のシャリ感是非常に良い。1個ずつシールが貼ってあるのもお客様から評価が高い。【量販店・H28】



## ● 1面に続き、流通関係者からの「恵水」の評価

- ・「恵水」の評価は良く、期待できる品種。取り扱い数量の増加を希望する。生産現場に広く普及してから本来の品質になる。これから真価が問われる。【卸売業者、H28】
- ・数量が増えれば主力商材となる。出荷期間が短く、数量少ないことが課題。【スーパー、H29】
- ・食味良好、糖度も高く、大玉なので商材として有望。ギフト向けの顧客もいるので、今後も取り扱いたい。【スーパー、H29】
- ・10玉サイズが取扱いやすく、ボリュームもあり引き合いは強い。6玉サイズなど大玉は、贈答品を取り扱うスーパーに入れている。【仲卸、H29】
- ・「豊水」より大玉で、酸味少なく、糖度が高いので荷動きは良い。9月の彼岸需要前の時期であれば、引き合い強く、「南水」など晩生種と競合しない。【青果店、H29】



都内果実専門店での販売

## ● 早期の生産拡大には「恵水」の樹体ジョイント栽培も有効です

上記のとおり流通関係者からは出荷量の増加を望む声が多く、栽培面積の拡大が急務となっています。

県では、早期成園化に有効な「恵水」の樹体ジョイント栽培について、園芸研究所、現地モデル圃場で実証試験を行っています（下図）。定植3年目の早い段階から、慣行栽培より多い収量が得られています。

「恵水」の樹体ジョイント栽培の栽培技術については、県農業総合センター、園芸研究所または各地域農業改良普及センターまでご相談下さい。

ジョイント栽培は神奈川県の特許技術です。本県での使用には実施料が必要です。詳しくは栽培技術同様こちらまで問合せ下さい。



### ○ 園芸研究所試験圃場

- ・定植：平成25年4月、1年生苗
  - ・株間：2m（2年間主枝育成）
  - ・ジョイント：平成27年4月
  - ・10a収量：1 t (H28) ⇒ 3.4 t (H29)
- ※慣行実測値：0.7 t (H28) ⇒ 2.4 t (H29)



### ○ 現地モデル圃場（筑西）

- ・定植：平成26年12月、1年生苗
  - ・株間：約1m（1年生苗長に依じて）
  - ・ジョイント：平成27年4月
  - ・10a収量：約0.5 t (H29, 3年目)
- ※慣行収量（定植3年目）推定値：0~0.2 t

## ● 美味しいと喜ばれるナシに、末永く儲かるナシに

「恵水」に関わるみなさんが同じ思いで、甘く、美味しく、当たりはずれのない「恵水」を生産し、有利販売に努めるという当たり前のことを着実に進めて、「恵水」で儲かるナシ経営を実現しましょう。